

## 安全確保で、ピカッと笑顔輝く椿西っ子を育成するPTA活動

萩市立椿西小学校 PTA

## 1 学校地域の概要

PTA会長：権代健一

校長：藤本和義

会員数：204名（家庭数183 教職員21）

児童数：254名

本学校の校区は、萩市椿地区全体であり、阿武川が三角州を形成するあたりの南岸沖積平野と、それに続く谷筋からなっている。

古くは農村地域であり、江戸時代は毛利氏の城下町萩の玄関口（大木戸）にあたり、現在も交通の要衝となっている。近年、バイパス整備に伴い、団地、住宅、商店も増えてきている。



運動場側から見た校舎

近隣には、市民体育館やウェルネスパークなどの体育施設、市民病院、福祉総合施設かがやきなどの医療、福祉関係の施設もあり、学習の場となっている。

また、「つばき田んぼの会」「本読み姫」「花綱会」「椿寿会」などに代表されるように、保護者や地域住民の学校教育への関心が高く、協力的な学校支援の土壌がある。

学校の沿革については、学制発布により、明治6年（1873年）1月、椿町小学（椿村字原）と大谷小学（椿村字大屋）が設立され、同19年（1886年）5月、両校を統合し、椿西小学校と称した。校舎は金谷天神社前の地に新設された。

明治25年（1892年）10月、学制改革により椿西尋常高等小学校と改称した。その後、大正3年（1914年）、濁淵（字立川）に移転新築し、そして、昭和40年（1965年）には、鉄筋コンクリート製の校舎に改築した。

教育活動等では、昭和46年学校環境緑化活動全国特選、昭和55年育友会文部大臣賞、平成13年青少年読書感想文全国コンクール学校賞、食品容器環境美化協会リサイクル活動部門優秀校（全国）、平成17年度読売新聞社「きらめきっ子」大賞最優秀賞、文部科学省読書活動優秀実践校などの輝かしい成果をあげてきた。さらに、平成16年度から文部科学省指定子どもの体力向上推進事業実施校（～18年度）、県教育委員会指定NIE実施校（～17年度）、17年度からは文部科学省指定コミュニティ・スクール事業推進校（～18年度）として、時代に即応した実践を積み重ねてきている。

平成18年（2006年）3月、校舎老朽化と校地拡大のため、雑式町内の農地を求め新築移転した。新校舎移転にあわせ、萩市教育委員会から学校運営協議会設置校としての指定を受け、現在コミュニティ・スクール実践校として7年目に入っている。また、20年度から学校支援地域本部事業（文部科学省事業～22年度）の導入により、地域コーディネーターと連携し、放課

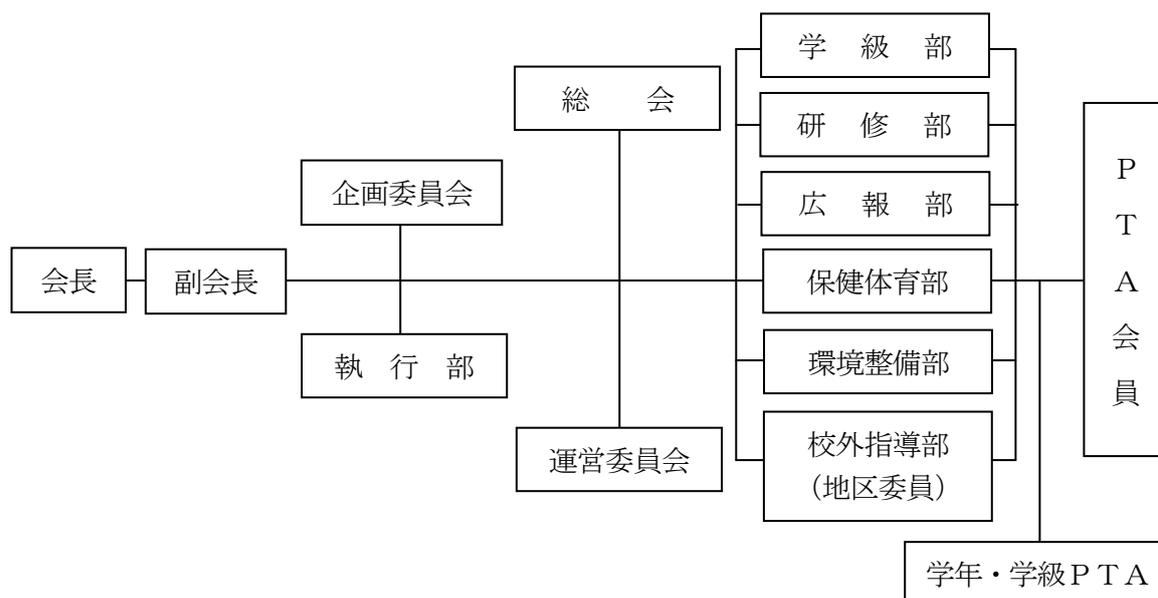
後子ども教室（わくわく水曜日）などの学校支援事業を充実させてきている。

平成 23 年秋には、隣接する市民体育館が、第 66 回国民体育大会「おいでませ！山口国体、山口大会」の会場となり、本校体育館はその練習場として活用された。そこで、大会を盛り上げるための一助として、2 年前から市当局と連携し、花いっぱい運動に重点的に取り組み、2 年連続萩市花いっぱいコンクール 3 回連続金賞、2 年連続年間最優秀花壇賞を受賞した。

24 年度は、山口県 P T A 連合会の研究指定校として、「ピカッと笑顔輝く椿西っ子の育成 ～ 学校、地域と連携した P T A による子どもの健全育成への取組～」という主題を掲げ、研究を推進してきたところである。

## 2 P T A の組織・活動

### (1) 全体組織図



### (2) 各専門部の活動方針

#### 【執行部】

- ① P T A 活動の企画・運営、研究の推進にあたる。
- ② 各部の連絡・調整に努める。
- ③ P T A バザーの統括を行う。
- ④ 東日本大震災被災地への支援活動の統括を行う。

#### 【学級部】

- ① 各学年 P T A ・各学級 P T A 活動の活性化を図る。
  - ア 4 月の学級懇談会において、各行事へのお手伝いの年間計画を立てる。
  - イ 学級懇談会の開催にあたっては、担任との連携を密にし実施する。
  - ウ 創意工夫をこらした学級 P T A 活動を実施する。
- ② ベルマーク運動を推進する。
  - ・ 10 月上旬、2 月下旬に集計する。

#### 【研修部】

- ① 会員相互の協力のもとに教育に対する知識・意欲の向上に努める。
- ② 会員の意見や要望を重視し、創意工夫をこらした教育講演会や研修視察を実施する。
- ③ 児童図書 of 修繕をする。

#### 【広報部】

- ① 郷土のよさ、自然等の紹介に努める。
- ② 家庭の教育力向上を図るための充実した研修活動等の紹介をする。
- ③ 家庭教育において、成果のあったこと等を幅広く紹介する。
- ④ 年3回、広報紙を発行する。

#### 【保健体育部】

- ① 保健体育部員の学校保健安全委員会への参加と具体的活動方法を検討する。
- ② 1年の保護者を対象に給食試食会を実施する。
- ③ 秋季大運動会と校内持久走大会への協力をする。

#### 【環境整備部】

- ① P T A奉仕作業の実施により学校の環境整備を図る。
- ② 環境教育に関する意識を高める。
- ③ リサイクル運動を推進する。(月1回)

#### 【校外指導部】

- ① 学期始め、全国交通安全運動中の街頭指導を行い児童の安全を守る。
- ② 夏期休業中のプール当番の割り当てを行う。
- ③ 地区の調査物・配布物等の協力をする。
- ④ 児童の校外生活の実態を知り、地区子供会等との連携を図っていく。

### 3 研究主題について

椿西小学校区では、萩・三隅道路の開通、国道262号バイパスの拡幅に伴い、車の通行量が以前に比べて大幅に増加している。また、バイパス沿いに大型店舗が開店するとともに、旧椿西小学校跡地には福祉複合施設つばきの建設工事も行われており、校区内の人の出入りも多くなっている。このような現状から、今後、ますます子どもを取り巻く交通安全や生活安全の状況が変わっていくことが予想され、子どもたちの安全を確保することがP T Aとしても喫緊の課題となっている。

さらに、2011年3月11日に発生した大地震とそれに伴う津波によって甚大な被害をもたらした東日本大震災の教訓として、子ども、保護者の防災に対する意識の高揚を図ることも重要な課題であるにとらえている。

そのために、学校が行っている「学校安全の3領域(防犯を含む生活安全・交通安全・防災(災害安全))」の取組に対するP T Aとしてのかかわりを見直し、積極的に支援していくための具体的な方策について研究していきたいと考えた。そこで、「安全確保で、ピカット笑顔輝く椿西っ子を育成するP T A活動」という研究主題を掲げ、次の内容について実践を進めていくこととした。

- (1) 校区内の通学路の安全点検
- (2) 危険箇所マップの見直し
- (3) ピカットハウス(子ども110番の家)の旗の交換
- (4) 登下校時の安全帽子の着用への協力
- (5) 緊急メールの登録の推進
- (6) 校外指導部による街頭指導
- (7) 夏季休業中のプール監視
- (8) 防災教育に関する取組

・図書購入      ・防災に関する教育講演会



ピカット君とビックハートちゃん  
(椿西小イメージマスコット)

## 4 研究の実際

### (1) 校区内の通学路の安全点検

今まで、多くの子どもたちは、旧椿西小学校前から萩駅前を通って登下校していた。しかし、ここは歩道が狭いうえに、萩・三隅道路の開通により、車の通行量が以前に比べて大幅に増加した。また、バイパスの拡幅工事が完了し、歩道も広く整備された。

このような状況を受けて、4月のPTA総会で、昨年度から検討されていた通学路の一部変更について学校側から提案され、5月のゴールデンウィーク明けから実施された。

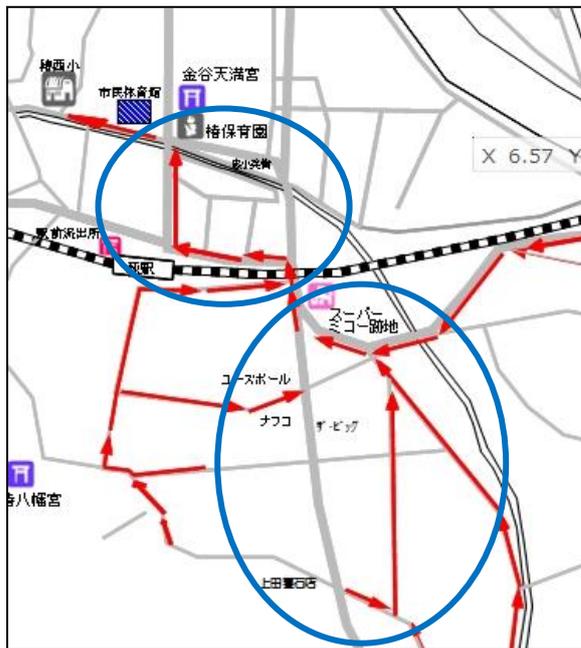
PTAでは、学校運営協議会の生活環境・安全支援委員会の方の協力を得て、変更された通学路を実際に歩いて、その安全性について確認を行った。



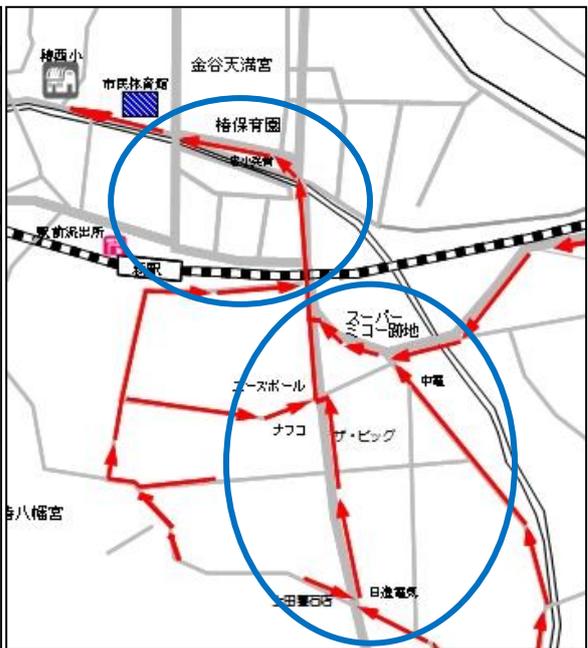
旧通学路（萩駅前歩道）



新通学路（拡幅されたバイパスの歩道）



変更前の通学路



変更後の通学路



通学路の点検（横断歩道）



通学路の点検（大型商店出入口）

点検の結果、新しい通学路は、歩道が広く、車道とはっきり分かれているため、以前に比べて、子どもたちが安心して登下校できる環境になったことが分かった。

他の通学路についても点検を行い、気づきを学校が市に報告する調査に記載してもらった。

## (2) 危険箇所マップの見直し

昨年度、PTAの活動として、「椿西小学校区 危険箇所マップ」を大幅に見直した。本年度は、このマップに載っている危険箇所を調査して、再度見直しを行った。そして、それを修正し、改訂版として配布することで、身の回りの危険について意識してもらうようにした。



それぞれの危険箇所



椿西小学校区 危険箇所

## (3) ピカットハウス（子ども110番の家）の旗の交換

本年度、ピカットハウスとして登録していただいている43軒の個人のお宅や事業所に、学校運営協議会の生活環境・安全支援委員会に協力を仰いで調査表を配布し（11月13日（火））、旗の破損状況を報告していただいたり子どもの地域での状況について気づきを書いていただいたりした。

その結果、10軒から、旗が破損しているため交換してほしいという連絡があり、手分けをして交換にうかがった。強風によりポールが折れたところもあった。

また、子どもたちの様子については、次のような気づきが寄せられた。

- 通りがかりの子どもたちが、よくあいさつをしているので感心しています。
- 通学路が変更になったためか、子どもさんたちを見かけることがほとんどなくなりました。



## (4) 登下校時の安全帽子の着用への協力

椿西小では、黄色い安全帽子をかぶっている子とかぶっていない子がいる。これは、入学時、希望者のみが購入することとなっているからである。

子どもたちの登下校の安全を確保するための手だての一つとして、全校の子どもたちに安全帽子を着用させたいという提案が学校からあった。PTAの企画委員会、運営委員会で話

し合い、PTAとしても、会員に趣旨の周知を図ったり声かけを行ったりして協力していくこととした。

#### (5) 緊急メールの登録の推進

現在、緊急時及び災害発生時の対応等についての学校から保護者への連絡は、学級連絡網か地区連絡網を利用して行うようになっている。

これを、素早く、効率よく行うために、緊急メールの配信サービスを利用したいという相談が学校からPTA執行部にあった。企画委員会、運営委員会で検討し、学校とPTAで協力して実施していくこととした。正式な運用の開始は、平成25年度からであるため、それまでに体制を整える必要がある。保護者への周知、登録の呼びかけ、試行期間中の状況把握等の活動をしていくこととした。

#### (6) 校外指導部による街頭指導

子どもたちの登校時の交通安全指導と見守り活動を行うため、毎学期始めに5日間、子どもたちの登校時間に合わせて街頭指導を毎年行っている。

本年度も、校外指導部で担当を決めて実施した。場所については、危険箇所マップに載っているような各地区の交通量の多い場所や危険が予測される箇所である。

交差点では、信号が変わってから侵入してくる車があることや左折車の中にスピードを落とさないで侵入してくる車がいること等の気付きを企画委員会や運営委員会で出し合い、保護者で情報を共有した。また、このような状況を学校へも伝え、子どもたちの安全指導に役立ててもらおうようにした。

子どもたちの登校を見守りながら、「おはよう」と声かけも行ってきた。元気な声で「おはようございます」とあいさつする子どもや横断歩道を渡った後、「ありがとうございます」とお礼を言う子どもが増えてきたことは、うれしい限りである。

#### (7) 夏季休業中のプール監視

夏季休業中に、学校のプールを借用し、プール開放を毎年行っている。このプール開放の時間は、子どもたちにとって楽しい時間であり、低学年から高学年まで思いっきり楽しんでいる。その反面、万が一事故が起きたとしても見つけにくいという危険もはらんでいる。

そこで、事故等の発生を防ぐため、次のような約束を決め、徹底を図っている。

○事前に、保護者による使用届を提出した子どものみプールに来ることができる。

○かまぼこ板を利用した名前札を持参しないとプールの使用ができない。

○各地区から2～3人ずつのプール監視当番を割り当てる。

○監視当番が4人以上にならないと、プールの開放ができない。

○25分の遊泳の後、5分間の休憩をとり、その間に人数の確認を行う。

○日記に気付き等を記載し、次の監視に生かす。

本年度は、昨年度の反省に基づき、監視中の携帯電話の使用はしないこと、いつでもプールに入れる服装で監視すること等について、保護者に周知を図った。

また、万が一事故が発生したとき速やかに対応できるように、6月の参観日を利用して、救



救急救命法の一般講習

急救命法の一般講習を行った。この講習会には、保護者だけでなく6年生の子どもたちも参加し、ダミー人形を使って実際の対応の仕方を学んだ。6年生は、昨年に続いて講習会に参加しているため、スムーズに助けを呼んだり心臓マッサージを行ったりしており、繰り返し訓練を行うことの大切さを実感した。

#### (8) 防災教育に関する取組

本年度、PTA活動の柱の一つとして、東日本大震災被災地への支援を行った。具体的な活動としては、①バザーやリサイクル活動による収益の一部及び応援メッセージを届ける ②ドリームチャレンジャー in 萩（福島県南相馬市の子どもたちと椿西小の子どもたちとの交流）の実施 ③東日本大震災写真展の実施 である。

このような活動と合わせて、椿西小の子どもたち、保護者の防災に対する意識の高揚を図る取組も行った。

#### 【図書の購入】

子どもたちに、東日本大震災のことを知ってもらいたい、防災に対する意識を高めてもらいたいという思いで、図書を購入した。購入した図書は、以下のとおりである。

- ☆「たんぽぽ あの日をわすれないで」文教出版
- ☆「ひまわりのおか」岩崎書店
- ☆「ラース 福島からきた犬」SDP
- ☆「上を向いて歩こう！」講談社
- ☆「福島の子どもたちからの手紙」朝日新聞出版
- ☆「宮城県気仙沼発！ファイト新聞」河出書房新社
- ☆「わたしたちの震災物語」集英社
- ☆「つなみ 被災地のこども80人の作文集」文藝春秋
- ☆「つなみ 被災地のこどもたちの作文集 完全版」文藝春秋
- ☆「奇跡の一本松 大津波をのりこえて」汐文社
- ☆「みんなを守るいのちの授業 大つなみと釜石の子どもたち」NHK出版
- ☆「ふくしまの子どもたちが描く あのと、きょう、みらい。」徳間書店
- ☆「自衛隊員が撮った東日本大震災」マガジンハウス

椿西小には本読み姫という読み聞かせボランティアがあり、毎週木曜日の朝の時間に読み聞かせをしに来てくださる。その方たちが、全学級を順番にまわってこれらの本の読み聞かせをしてくださった。本の内容もさることながら、涙を流しながら読まれる方もあり、子どもたちの心に深く届く取組となった。

バザーのときには、図書コーナーをつくり、これらの本を置いたところ、たくさんの子どもたちや保護者、地域の方たちが手にとって読んでおられた。

今、学校の図書室にコーナーを設けて置いてもらい、子どもたちがいつでも読んだり、授業で自由に活用したりできるようにしている。



バザーでの図書コーナー

## 【防災に関する教育講演会】

P T Aでは、毎年11月の参観日を利用して、研修部が中心となり教育講演会を行っている。今年度は、防災をテーマに実施した。この講演会は、保護者だけでなく、5・6年生の子どもたちにも参加してもらった。

◇演題：「災害から命を守る」

◇講師：山口大学大学院 理工学研究科 教授 三浦 房紀 様

◇日 時：平成24年11月22日（木） 14:00～16:10

◇場 所：椿西小学校 体育館

講演では、過去の災害の教訓、これから先起こるであろう災害、災害に備えるということについて話をされた。災害が起きたときに大切なこととして、「子どもは、後で親が必ず迎えに来てくれると信じて逃げる」「親は、子どもは必ず逃げてくれると信じて、後で迎えに行くために逃げる」という家族の話し合い、信頼の話が心に強く残った。

[保護者のアンケートより（一部）]

- 小さいときから、防災意識をもたせることが大切と思った。
- 意識を高めるためにも、中学生にも聞かせたいと思った。
- 災害が起きたときのことについて、家庭でしっかりと話し合いたかった。
- 萩地域に住んでいて、災害は対岸の火事のように思っていたが、意識が変わった。



三浦教授による講演

## 5 研究を振り返って

学校は、登下校を含めて、子どもたちが安心して学習したり生活したりできる安全な場所ではない。しかし、校区内の交通状況の変化や商業施設、公共施設等の建設に伴う人の流れの変化などによって、椿西小校区の状況は変わってきている。

この変化にP T Aとしても対応するため、本年度、「子どもたちの安全確保」ということに焦点を当て、研究を進めてきた。

校区内の通学路の安全点検や危険箇所マップの見直しでは、校区の状況を把握し、改善することができた。ピカットハウスの旗の交換では、地域との連携を図ることができたと考える。登下校時の安全帽子の着用への協力や緊急メールの登録の推進では、子どもや保護者の交通安全、生活安全に対する意識の啓発を図ることにつながった。校外指導部による街頭指導や夏季休業中のプール監視では、内容や方法を見直しながら、継続することの大切さを実感することができた。防災教育に関する取組では、これから先どこで遭遇するかもしれない災害に対する心構えについて子どもも保護者も意識するきっかけになったし関心も高まった。

本年度の研究で、今まで行ってきたことを見直したり、さらに継続したり、また、新たに取り組んだりしたことで、今の椿西小学校の状況に対応したものになったと考える。

しかし、安全は、いつおびやかされるか分からない。本年度実施したことを、今後も意識し、さらに改善を図りながら継続していくことが、子どもたちの安全確保につながると信じてこれからも取り組んでいきたい。